

第4段階 ガリラヤの大宣教

E. 十二使徒の任命と山上の教え

13. 山上の教え、第12部：

イエスは、異なる結果をもたらす二つの道について警告する

デイリージーザスニュース #079

基本テキスト: MT 7.13-23 (並行テキスト: ルカ6.43-46)

13わたしはあなたたちに、狭い門から入りなさいと命じます。滅びに至る門は大きく、その道も広いので、そこから入る者が多いのです。14しかし、命に至る門は狭く、その道も細いので、それを見いだす者は少ないのです。

15偽預言者に常に警戒しなさい。彼らは羊の皮をかぶってあなたがたのところに來るが、その内側は凶暴な狼である。16あなたはその実によって彼らを見分けるであろう。^L木はそれぞれその実によってわかる。^{MT}人は、いばらからぶどうを取ったり、あざみからいちじくを取ったりするだろうか。17同様に、良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。18良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶことはできない。19良い実を結ばない木はみな切り倒されて、火に投げ込まれる。20このように、あなたはその実によって彼らを見分けるであろう。

^L善人はその心にある善いものから良いものを取り出し、悪い人はその心にある悪いものから悪いものを取り出します。口は心のあふれ出るものを語るからです。

」なぜ、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことに従わないのですか。21^{MT}わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の王国に入るのではなく、天にいますわたしの父の御心を行う者だけが入るのである。

22その日には、多くの者がわたしに言うでしょう。「主よ、主よ、私たちはあなたの名で預言をし、あなたの名で悪霊を追い出し、あなたの名で多くの奇跡を行ったではありませんか。」23そのとき、わたしは彼らに言います。「わたしはあなたがたを全然知らない。不法を行う者どもよ、わたしから離れ去れ。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルーク = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月 (第16月)

第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	13. 山上の教え、第12部 イエスは二つの異なる道と二つの異なる結果について警告する

コメント：

イエスの「山上の教え」における3番目で最後の警告は、教えのセッションを締めくくる最も基本的な、したがって最も重要な命令でした。主は、主に従う道に「**入るように**」という**命令を与えました**。これは、イエスがこの長い教えのセッションで主に弟子たちに話していた間、大勢の群衆も聞いていたため、イエスは彼らにも話していたことを思い出させます。この命令は、聞き手が信仰によってイエスに従うという取り返しのつかない決意をすることを要求しました。

「**狭い門から入りなさい**」という命令は、イエス自身と彼の福音の教えを指しています。破滅への道は実に広く、神以外のあらゆる意見や観点が含まれています。破滅への道を歩むすべての人は、自分自身の意見、またはイエス以外の誰かの意見に従っています。一方、弟子は、イエスを唯一の主、救世主、教師として従うことを選択します。この門と道は狭く、それはイエスのみに限定されています。長い道への門を「**入る**」ということは、継続的なプロセスに身を捧げるという決断を意味します。これは生涯にわたる献身への呼びかけでした。

イエスだけが狭い道であるため、イエスに従う決意には、「広い」道の多くの影響を避ける必要性が含まれます。偽預言者は、世界における強力な影響力の源です。預言者は、そのいわゆる真実から生じる独特の権威をもって、ある種の真実の「啓示」に従って話すのが本性です。たとえ自称偽預言者であっても、その言葉を拒否することは本質的に恐怖を誘発するものです。もし彼らが本物の預言者だったらどうでしょう。イエスの教えを反映しないすべての預言者の声は偽りです。なぜなら、イエスだけが、私たちが従おうとする狭い道だからです。

イエスは、どんな預言者の主張も吟味するためのテストを与えました。これは、彼らを裁くことではありません。彼らの実際の霊的状态と永遠の性質はイエスに委ねるからです。しかし、イエスは、どんな預言者の声も受け入れる前に「**実**」を探すようにと私たちに命じました。その実とは、キリストに似たものであり、特にキリストの無条件の自己犠牲的な愛です。神の真の預言者には利己心はなく、イエスが栄光を受けられることへの熱い情熱があるだけです。この姿勢は、真の預言者の人生におけるあらゆる経済的、人間関係、コミュニケーション、行動の表現からにじみ出ています。バプテスマのヨハネは、真の預言者の謙虚さとキリスト中心主義の素晴らしい例でした。

私たちのほとんどは、イエス以外の預言者や教師にあまりにも多くの注意を払っています。平均的なクリスチャンが、教会で牧師の話を聞いたり、ニュース、音楽、娯楽などの情報源を聞いたりするのに、毎日イエスの御言葉を見たり聞いたりするよりも何時間も費やしていることを考えてみてください。クリスチャンは皆、イエスの生涯と教えの専門家であるべきです。私たちは聖書の中に、イエスについて知ることのできる限られた量の情報を持っています。私たちは、人生の他のどんな主題や話題よりも、イエスの御言葉に親し

第4段階 ガリラヤの大宣教

むことに身を捧げるべきです。私たちがイエスに集中すると、イエスと偽預言者の違いは私たちにとってかなり明白になります。

イエスはまた、破滅への道に強力な影響力を持つ、名ばかりのクリスチャンについても警告しました。イエスは、狭い門を通らずにイエスに「主よ、主よ」と言う人、またはイエスの名で行動したり話したりすると主張する「多くの」人々がイエスにそう言うだろうと明らかにしました。自分をスカンクと呼ぶことでスカンクになるのと同じように、自分をクリスチャンと呼ぶことでクリスチャンになるわけではありません。イエスについて「主よ」と言ったり歌ったりすることは、イエスが主であると本当に信じていることを意味しません。イエスを主と認める信仰を適切に表現する行為は何でしょうか。それは従順です。

「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の王国に入るのではなく、天の父の御心を行う者だけが入るのです。」

これは、イエスに従う努力を通して救いを得ようとするという意味ではありません。聖霊が私たちの心と精神に働きかけて、イエスについての聖書（福音）の真理を明らかにするとき、父が主であり神であるのとまったく同じように、イエスが主であり神であることを確信するという意味です。イエスが天と地とその中にあるすべてのものを創造したので、私たちはイエスが主であると信じています。イエスは宇宙を命令し、支配しています。イエスはそれほど力強く、イエスの言葉はそれほど効果的です。

イエスについてのこれらのことを本当に信じ、イエスに従うことを決意するとき、私たちは自分がイエスの従順な僕であり、貪欲な学習者として従っていることを十分に理解しています。私たちが従うことを決意するのは、私たちがイエスようになるために、私たちの従順を強め、可能にすることがイエスの意志であると信じているからです。私たちがイエスに従うことができる自分の能力を信頼しているわけではありません。むしろ、私たちは罪深く、自分の力ではまったくイエスに従うことができないと確信しているのです。同時に、私たちはイエスがすべてのものの神であり、私たちがイエスを信頼し、すべてにおいてイエスに従うことを学ぶことを決意するときに、私たちの従順を可能にする能力を含め、イエスにとって不可能なことは何もないと信じています。

真の弟子は、従順が救いをもたらすとは信じていません。キリスト教徒は、イエスが私たちに代わって自らの救いの働きを通して救いを勝ち取った救世主であると信じています。私たちは、無条件に愛されていると信じています。したがって、イエスに示された神の愛と恵みに、従順でイエスを愛し返すことが私たちの願いです。神の意志を行うことは、「私たちを救う主」であるイエスに感謝と感謝を表す最良の方法です。

世の中には、キリスト教徒と自称し、イエスについて語る（おそらくイエスにさえ語る）が、実際にはイエスに従うつもりのない人が大勢います。偽預言者のように、名ばかりのキリスト教徒はキリスト教徒にも非キリスト教徒にも同様にひどい影響を与えます。彼らは故意に破滅に向かっていますが、狭い道を歩んでいるかのように話します。偽預言者のように、私たちは偽キリスト教徒をその実、あるいは実の欠如によって見分けます。彼らは態度、価値観、あるいは生活様式においてイエスのようではありません。

偽預言者と偽キリスト教徒は、破滅へと続く広い道を闊歩しています。全員です。大勢です。ですから、イエスの福音を聞くすべての人が、イエスへの信仰と献身の狭い門に入り、イエスの意志の狭い道を永遠に従うという、取り返しのつかない決断を下すことが重要です。そうすると、広い門と狭い門/道の間に矛盾があることに気づきます。

第4段階 ガリラヤの大宣教

破滅への広い道は、イエス以外のあらゆる意見から始まります。そして、そのような意見は数多くあります。しかし、広い道を進み続けると、最初に持っていた意見の多くが実際には間違っていて、信頼できないものであることに気付くでしょう。その幹線道路には悪いアドバイスがあふれています。破滅への道を進むほど、道は狭くなり、より構築的になり、永遠の死と暗闇で終わります。「広い」道を行くすべての人は、同じ暗く致命的な目的地にたどり着きます。結局、それは広い道ではありませんでした。

一方、イエスのみという狭い門に入ることを決意した弟子たちは、イエスに従えば従うほど、神としてのイエスの無限の豊かさを経験するようになることに気づきます。狭い道として始まったものが、無限の資源、栄光、完全性、美しさへと開かれます。結局、「狭い」道は無限に豊かであることがわかります。なぜなら、イエスは共同相続人として、彼が持っているすべてのものを愛情深く私たちと分かち合うからです。

応用：

あなたはイエスへの揺るぎない信仰の「狭い門」に入りましたか？ もし入っていないなら、イエスは「山上の教え」でこれらの言葉を語ったとき、あなたに語りかけていたのです。イエスの言葉があなたに届くことが彼の意図であり、そしてそれは実際に届きました。

イエスに、取り返しのつかない生涯を捧げるという信仰を、あなたはなぜ捨てているのでしょうか。今イエスを拒否して、将来の破滅を覚悟する価値が本当にあるのでしょうか。

もしあなたがすでに狭い門に入っているなら、あなたの人生の比類ない優先事項として、イエスを知ること、そしてイエスのようなことを求めていますか？

あなたは、破滅の道を歩む人々の影響によって、従順の狭い道を進むあなた自身の歩みが遅くなることを許していますか。

イエスを愛しているという理由だけで、今日、イエスにもっと完全に従うために何ができるのでしょうか。